

『海に向かって手を伸ばせ』井上隆晶牧師

出エジプト記 14 章 1～4、11～16 節、I コリント 15 章 51～58 節

①【神さまがする事と、人間がする事は違う】

イスラエルの民は、エジプトを出て約束の地に向かいます。エジプトのラメセスという町から出発して南に下り、スコトという場所に宿営を張ります。そこから再び北上し、元来た道を引き返すようにしてバアル・ツェフォンという葦の海に面した場所に宿営します。ファラオはそれを知って、イスラエルの民が荒れ野で迷子になったと思い、後を追いかけて来ました。前には葦の海、後ろにはエジプト軍、イスラエルは完全にはさまれ、身動きできない状態に追い込まれました。しかしそれはすべて神様の計画でした。

●アイルランドの古いことわざに「神は一つの扉をお閉めになったら、もう一つの扉をお開きになる」というのがあります。私たちは目の前の一つの可能性が閉じられると、その失われた一つのことばかりを残念がって立ち止まってしまいがちですが、一つの扉が閉じられた時は、神様が別の扉を用意されていることを信じたいと思います。

しかし民は非常に恐れ、神に叫び、モーセに向かって「我々を連れ出したのは、エジプトに墓がないからですか。…『我々はエジプトで、ほうっておいて下さい。…荒れ野で死ぬより、エジプト人に仕える方がましです』と言ったではありませんか。」（同 13：11）と訴えました。こうなったのはすべてモーセよ、お前のせいだということです。神を見ようとししない人は、人のせいにします。自分の周りには人しかいないからです。

そこでモーセは民に向かって次のように言います。「恐れてはならない。落ち着いて、今日、あなたたちのために行われる主の救いを見なさい。あなたたちは今日、エジプト人を見ているが、もう二度と、永久に彼らを見ることはない。主があなたたちのために戦われる。あなたたちは静かにしていなさい。」（同 13：13～14）あなたは落ち着いて、神がなされることを信じなさい、と言ったのです。これと同じような言葉が聖書の中にいくつか出て来ます。例えばイザヤ書に、連合軍が攻めてくるというので、何とかして備えなければならないと、もうそのことで頭がいっぱいになって、あれもしなきゃあならない、これもしなきゃあならないとバタバタしているアハズ王にイザヤは「落ち着いて、静かにしていなさい。恐れることはない。」（イザヤ 7：4）と言いました。また歴代誌下では、ヨシヤファト王が「私たちには、攻めてくるこの大軍を迎え撃つ力はなく、何をすべきか分からず、ただあなたを仰ぐしかできません。」（20：12）と祈ると、主の霊が下り「恐れるな。おじけるな。これはあなたたちの戦いではなく、神の戦いである。…あなたたちが戦う必要はない。堅く立って、主があなたたちを救うのを見よ。」（歴

代誌下 20 : 15) と言われました。このように見てゆくと、神様がする事と、人間がする事は違うということが分かってきます。しかし人間は、神様がすることを自分でしようとし、人間がしなければならないことをしようとしないので失敗するのです。

②【人間がしなければならない事】

では、人間がしなければならない事とは何でしょう。神はモーセに命じます。「イスラエルの人々に命じて出発させなさい。杖を高く上げ、手を海に向かって差し伸べて、海を二つに分けなさい。」(同 13 : 15~16) 目の前の問題や敵を追い払うことは神がなさいます。私たちがすることは①「出発すること」と、②「手を海に向かって差し伸べること」です。手を伸ばすというのは、祈りの姿勢を意味しています。モーセ自身や彼の杖に海を二つに分ける魔法の力があるわけではありません。神が海を分けるのですが、その神を信じるために祈りが必要なのです。祈って神を信じて前に進むのです。そうすれば海は退き、山は動くのです。

●榎本保郎牧師はこう書いています。「信仰生活にとって大事なことは、神さまの事と、私の事を峻別するということです。…私の家族が救われるために何をしたら良いでしょうか、との看守の問いに対し、家族伝道をせよとは言わなんだんです。…あなたが主イエスを信ぜよ、それがあなたの分である。あなたの家族が救われるのは神さまのする事です。それを私たちはそうではなく、家族を神さまに導こうと思って、下手くそな事をするから、みんなが躓くのです。」「あなたがまず最初にイエス様を信じる事、主イエス・キリストの本当の喜びの中に生かされる毎日を過ごすことです。その時に、神さまは、神さまの業をなさるのであります。」

先日の参議院選挙で、外国人を排斥するような発言をした党員が多く当選しました。私は、これは大変な時代が来たなあと思いました。時代が不安定になると、必ず悪人捜し、原因捜しをしようとする人たちが出て来ます。

●精神障がいのある事を勉強していると、患者さんに共通の「認知の歪み」があることが分かります。①白黒志向になる事。(善か悪か、敵か味方か、成功か失敗かに考える) ②結論をすぐに出してしまう事。③視野が狭くなる事。④物事を大げさに考えてしてしまう事 (誤認)。です。これに良く似ているのです。不安定な苦しい状態に耐えられない人が増えてきているという事でしょう。答えの出ないものを受け入れ、中途半端な状態に耐える力のことを「ネガティブケイパビリティ」と言います。その力を養うのは、①目薬、②日薬、③口薬、だといいます。目薬とは「自分をいつも見守っている方がいる」ことを知ることです。日薬とは、「日経てば何とかなる」と信じることです。口薬とは「大丈夫」と常に言うてもらうことです。

これは神が常に私たちに言っておられることです。人は今置かれている状態が信じられなくなると、バタバタしてあれもしなきゃあ、これもしなきゃあと考え、周りの人を振り回し、人を操作しようとしします。それは不信仰の姿です。要は信じる力が必要なのです。人を信じ、神を信じ、今置かれた状況を信じ、将来を信じる力が必要なのです。そのためにまず座り、静かに落ち着いて、祈ることをしましょう。信じる力は祈りに比例して神から来るのです。